９　次の文章は、『雨月物語』「の」の一節である。紀伊の漁師の次男でありながら風雅ばかりを好む夢見がちな青年であったのは、雨宿りした先で都風の美女と出会う。翌日その女の家を訪れた際に愛を告白され婚約するが、次に同じ家を訪れると廃墟となっており、真女子は雷とともに姿を消した。その後、真女子は再び事情を偽って豊雄に迫り夫婦となるが、の神社の翁に正体が蛇であることを見破られ滝の中へ消えた。以下の場面は、二度までも真女子に惑わされた豊雄が別の妻を迎えるところから始まる。これを読んで、後の問いに答えよ。　〈香川大〉二〇二三年度出題

　父母太郎夫婦、の恐しかりつる事を聞きて、いよよ豊雄がならぬをみ、かつはのねきを恐れける。「てにてあらするにこそ。妻むかへさせん」とてはかりける。の里に芝の庄司なるものあり。一人もてりしのにまゐらせてありしが、此の度いとま申し給はり、此の豊雄をがねにとて、をもて大宅がへいひる。よき事なりてなしける。かくて都へもの人をせしかば、此の采女なるものよろこびて帰り来る。の大宮へにこしかば、のよりして、なども花やぎりけり。豊雄ここに迎へられて見るに、此の富子がかたちいとよく心にひぬるに、①かのがせしこともおろおろおもひ出づるなるべし。

　はじめの夜は事なければず。二日の夜、よきほどのごこちにてのに、の人ははたうるさくまさん。かの御わたりにては、何の中将、の君などいふにぶし給ふらん。今更にくくこそおぼゆれ」などるるに、富子をあげて、「古きを忘れ給ひて、かくなる事なき人をⓐ時めかし給ふこそ、こなたよりましてくあれ」といふは、こそかはれ、しくが声なり。②聞くにあさましう、身の毛もたちて恐しく、あきれまどふを、女うちゑみて、「君な怪しみ給ひそ。海にひ山にひし事を速くわすれ給ふとも、さるべきにしのあれば又もあひ見奉るものを。し人のいふことをまことしくおぼして、に遠ざけ給はんには、ⓑ恨み報ひなん。の山々さばかり高くとも、君が血をもて峰より谷にぎくださん。③あたら御身をいたづらになし果て給ひそ」といふに、只わななきにわななかれて、今やとらるべきここちに死に入りける。のうしろより、「君いかにむつかり給ふ。かうⓒめでたき御なるは」とて出づるはやなり。見るに又をし、をてにす。めつしつかはるがはる物うちいへど、只死に入りたるやうにて夜明けぬ。

〈注〉

１　かくて鰥にてあらするにこそ―こうして豊雄を独身にしておいたから、こんな災いに巻き込まれたのだろう。

２　大内の采女―地方官人の娘の中から差し出される宮中の女官。

３　因み―婚姻。

４　年来の大内住に～―以下、豊雄から富子への嫉妬交じりの冗談。長年宮中で勤めたあなたは私のような田舎者はお嫌いだろう、宮中で高貴な男と関係を持つこともあっただろう、という内容。

５　ことなる事なき人―特に優れたところのない人。

６　まろや―真女子の召使の童女。

問１　傍線部ⓐ「時めかし給ふ」、ⓑ「恨み報ひなん」、ⓒ「めでたき御契」を現代語訳せよ。

問２　傍線部①「かの蛇が懸想せしこともおろおろおもひ出づるなるべし」とあるが、豊雄が真女子との関係を想起したのはなぜか、説明せよ。

問３　傍線部②「聞くにあさましう、身の毛もたちて恐しく、只あきれまどふ」とあるが、豊雄がこのような反応を示したのはなぜか、説明せよ。

◎問４　傍線部③「あたら御身をいたづらになし果て給ひそ」は、命を無駄にするなという趣旨の言葉であるが、豊雄に具体的にどうすることを求めているのか、説明せよ。

問５　女が「もののけ」として男の愛を求めるという筋立ては、ある平安時代の物語を踏まえたものである。その作品名を答えよ。

【解答と採点基準】

問１　ⓐ＝Ａ寵愛Ｂなさる

Ａ＝５〔「特別に大切にして愛する」なども可。〕

Ｂ＝５〔尊敬語の訳がない場合は不可。〕

　　　ⓑ＝ＡきっとＢ恨みを報復しＡましょう

Ａ＝５〔確述用法を明らかにする語がなければ減点２。〕

Ｂ＝５〔「報復」は「仕返し」などでも可。〕

　　　ⓒ＝ＡすばらしいＢ前世からのご縁

Ａ＝５〔「立派な」なども可。〕

Ｂ＝５〔「前世からの」はなくても可。「ご縁」は「お約束」も可。〕

問２　Ａ妻に迎えた富子は容姿の美しさに加え、Ｂ宮中での経験から立ち居振る舞いも優雅であり、Ｃそんな有様が真女子の面影と重なったから。

Ａ＝３〔富子の「容姿の美しさ」に触れていなければ不可。〕

Ｂ＝３〔富子の「振る舞い」に触れていなければ不可。〕

Ｃ＝４〔二人の「重なり・共通点」について述べていなければ不可。〕

問３　Ａ豊雄に恨みを述べる声は妻の富子ではなく、まぎれもなく真女子の声であり、Ｂ妖怪の執念深さを実感したから。

Ａ＝７〔「富子ではなく真女子の声であったこと」が明白でなければ不可。〕

Ｂ＝３〔「執念深さ」に触れていなければ不可。〕

問４　Ａ豊雄が私を疎遠にするならば殺さなければならないので、Ｂ豊私を遠ざけず昔の約束どおり夫婦になろうということ。

Ａ＝４〔「疎遠にするならば殺す」ということが明らかでなければ不可。〕

Ｂ＝６〔「夫婦になること」が明らかでない場合は、減点４。〕

問５　源氏物語

【現代語訳】

　父母や長男夫婦は、この恐ろしかった出来事を聞いて、ますます豊雄の過ちではないことを気の毒に思い、一方では妖怪の執念深さを恐れた。「こうして豊雄を独身にしておいたから、こんな災いに巻き込まれたのだろう。（結婚相手にふさわしい女性を探して）妻を迎えさせよう」と言って相談した。芝の里に芝庄司という者がいる。娘を一人持っていたのを、宮中の女官として差し上げていたが、このたびお暇を申し出て（お許しを）頂き、この豊雄を婿に（したい）と言って、仲人をたてて大宅家のもとに申し入れて来た。うまく話が運んで、すぐに婚姻を取り結んだ。こうして都へも迎えの者を送ったので、この女官の富子という娘も喜んで帰ってくる。長年の宮中でのつとめに馴れてきているので、あらゆる立ち居振る舞いをはじめとして、姿かたちなども華やかで優雅であった。豊雄はここに（婿として）迎えられてみると、この富子の姿かたちはたいそう美しくすべてに満足したので、あの蛇の精が自分に思いをかけたこともぼつぼつと思い出す程度であるのだろう。

　初めの夜は何事もなかったので記さない。二日目の夜、（豊雄は）いい気分の酔い心地で、「長年の宮中の生活で、（あなたは私のような）田舎者はやはりわずらわしくお思いでいらっしゃるでしょう。あちら（＝宮中）の御付近ではの中将や宰相の君などという方に添い寝なさることでしょう。今さらながら憎く思われます」などと冗談めかして言うと、富子はすぐに顔を上げて、「昔の約束をお忘れになって、このような特に優れたところのない人を問１ⓐ寵愛なさる（こと）は、あなたにもまして（この人を）憎く思います」と言うのは、姿かたちこそ（富子に）変わっているけれども、確かに真女子の声である。（豊雄はそれを）聞くと驚きあきれ、身の毛もよだって恐ろしく、ただもう途方に暮れるばかりであるが、女はにっこりして、「あなた様、決して怪しみなさいますな。海に誓い山に誓ったことを早くもお忘れになったとしても、そうなるはずの宿縁があるので再びお逢い申し上げることだなあ。他人の言うことを真実のようにお思いになって、もし無理に（私を）遠ざけなさるなら、問１ⓑきっと恨みを報復しましょう。紀州の山々がどれほど高いとしても、あなた（を殺して、そ）の血で山の頂上から谷に注ぎ落としましょう。せっかくのお体をむだに死になさるな」と言うので、（豊雄は）ただもう震えるばかりで、今にも取り殺されそうな気持ちで気を失う寸前であった。屛風の後ろから「ご主人様、どうして機嫌を悪くなさっているのですか。このように問１ⓒすばらしい前世からのご縁でありますのに」と言って出てきたのは（真女子の召使の）まろやである。（豊雄はそれを）見ると再び肝をつぶし目を閉じてけに倒れ伏す。（二人は）なだめたり、脅かしたりして代わる代わる話しかけるけれども、（豊雄は）ただもう死んだふうになったままで夜が明けてしまった。